

矢作川流域圏懇談会通信

R4 海部会編 vol.4



発行日：令和5年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第14回海部会まとめの会を開催しました！

第14回海部会まとめの会では、令和4年度の活動をふりかえるとともに、次年度の活動目標・活動計画について話し合いました。また、奈佐の浜プロジェクトの活動から伊勢湾流域におけるゴミの問題について、話題提供と話し合いを行いました。

日時：令和5年1月24日（火） 14:00～16:45

場所：西尾市中央ふれあいセンター 第1研修室

参加人数：16名（内オンライン参加2名） *事務局を含む



◆主な会議内容

1 今年度のふりかえり

設定した4つの課題に関する今年度の活動状況について報告されました。主な報告事項を以下に記します。

◆ごみの問題

- ・22世紀奈佐の浜プロジェクトの答志島合宿の参加報告から答志島のごみ漂着状況や活動について情報を共有した。

◆豊かな海の再生に向けた取り組み

- ・第49回WGにおいて、アサリやノリの漁獲量の現状、海の栄養塩の現状について情報を共有した。
- ・8月20日「豊かな海の栄養源 ～きれいな海は豊かな海か？～」をテーマに第3回公開講座を実施した。オンライン配信やYouTubeを活用して全国に配信した。

◆海と人の絆

- ・第50回WGにて、海洋プラスチックを使ってアクセサリーを作成・販売しているsobolonの山崎氏より、環境問題に対する思いや活動について報告いただき、海ごみの利活用という新しい視点について意見交換を行った。

◆土砂の問題

- ・海・川合同部会（11月22日）において、鵜の首掘削箇所、ヨシ原再生箇所、干潟造成箇所の現地視察及び意見交換を行い、土砂の問題や活用に関する情報や認識を共有した。

2 話題提供

愛知・川の会 近藤氏より「22世紀奈佐の浜プロジェクト」の状況、伊勢湾の漂着ごみの現状と課題について話題提供いただきました。近藤氏からの主な報告事項を以下に記します。

- ・奈佐の浜プロジェクトは2012年から始め、11年となった。今までの参加者は4000人以上となる。
- ・海岸の漂着ごみの7～8割が流木などの自然ごみ。流木は漁業に大きな被害をもたらしている。また、ウミガメの上陸にも大きな影響がある。
- ・流木を利用して生息する海浜性昆虫類がいる。上流と下流の関係において、土砂・栄養塩・自然物の流下について考える必要がある。また、矢作川はダムなどの構造物により流木があまり流れてこないと思う。

3 次年度の活動目標および活動計画の設定

設定した4つの課題に関する次年度の活動目標・活動計画について報告されました。主な活動計画を以下に記します。

◆ごみの問題

- ・伊勢湾で活動している団体との連携、矢作川流域圏でのごみ問題に関する他部会もしくは他団体との協議を進める。

◆豊かな海の再生に向けた取り組み

- ・海の栄養塩不足への対策に関する経過とアサリ・ノリの状況について情報共有し、意見交換する。豊川の自然再生事業について情報共有する。

◆海と人の絆

- ・矢作川感謝祭や三河湾大感謝祭などの地域イベントへの出展を通じて海と人との絆の重要性を啓発する。また、西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携を進める。

◆土砂の問題

- ・河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過について情報共有と意見交換を進め、今後の土砂や生物の状況について取りまとめていく。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●話題提供

- ・流木を資源として利用できないか。昔は流木を燃料として利用していたらしい。(高橋)
 - ▶ 木材コンポストのような形で、流木を火力の燃料エネルギーとしていくなど。(鈴木)
 - ▶ 矢作ダム湖の上流で地元NPOがダム湖に流入した流木を集めて炭にする活動をやっている。(鈴木・山路)
- ・砂浜がいっぱいあればよいのだが少なすぎる。流域圏として自然海岸の再生を解決策としてできないか。(近藤)
 - ▶ 砂が不足している。砂の争奪戦のような格好で砂の価格が高騰している。(鈴木)
 - ▶ 流域全体の土砂を地域で活用していく。発生した可燃ごみについても地域でエネルギー化していくなど。(鈴木)
- ・8~9割が自然ごみだが、残りの1~2割はプラスチック等のごみなのでなんとかしなければいけない。(近藤)
 - ▶ プラスチックごみのうち漁業系ごみがかなりを占める。漁業系の廃棄物は問題になっている。(近藤・鈴木)
 - ▶ 伊勢湾全体で毎年10月にクリーン大作戦をやっている。行政と市民が協力して清掃を進めている。(山路)
- ・海浜の昆虫をやっている方から、「流木は撤去してもらっては困る」と言われた。(近藤)
 - ▶ 流木等も放置しておけば生態系の中で機能を果たすというのは事実。だからと言って、漁業者の生活を守るという視点は、環境問題の基軸にしないといけないと思う。(鈴木)
 - ▶ 海浜性の昆虫は基本的に砂を利用して生息しており、ここまで流木やごみが密になると海浜性昆虫の生息環境としてはマイナスと言える。砂浜をベースとして、所々に流木や海藻があるのが適正な生息環境となる。(松沢)

●今年度のふりかえり、次年度の活動目標・活動計画の設定

- ・流域圏懇談会で扱っている課題や問題を外に発信する活動をもう少し進めていきたいと思う。(山路)
 - ▶ 外部と一番つながりを持っているのが海部会。取り組みを外部に広げて、広く認知されていく必要がある。(近藤)
- ・ごみ問題は広い範囲に目を向けていくほうがよい。広く見ていくことが海部会の特徴なので。(青木)
 - ▶ 伊勢湾という広い範囲を見すえながら、矢作川流域圏から他部会や他団体に問題発信していきたい。(山路)
- ・豊かな海の再生のため、管理運転を3年間限定で実施する。それである程度の結果が出るかと思う。(都築)
 - ▶ 新たな問題として、栄養が減り過ぎてしまって、浅場を造ってもそこに生物がいないという状態が出てきた。本来なら多様な生物が生息する場であるのに、栄養不足が原因で、単なる“砂の山”になってしまっている。(鈴木)
- ・干潟・浅場を生物が豊富な、水質浄化機能が発揮できる場に戻すことが最優先。併せて、干潟・浅場を保全し、造成するという海の再生事業を進めていく。そのためには砂が必要。(鈴木)
- ・矢作川は愛知県の中で最もダムの多い河川で、堆砂が激しいところ。その問題を抜きにして矢作川流域圏の再生は難しいと思う。(鈴木)
 - ▶ 砂は地域の人々の税金を使ってでも海に持ってくるべきだと思う。トヨタなど企業の協力も必要と思う。(高橋)
 - ▶ ダムの堆砂を持ってくるかどうかは、国が対策を検討することが必要。市民団体や地方行政ではできない。(鈴木)
- ・三河湾の5%に深場がある。深場に落ち込む有機物も減っているため硫化水素も出ないと思う。深場での有機物の供給と貧酸素の状況に関する情報があるとよい。(井上)
 - ▶ 深場については、埋めて浅場にするわけにはいかないので、鉄を供給して硫化水素の発生を抑え込むなど。ただし、これを海の中でやれるのかという運用の問題がある。(鈴木)
- ・流域治水をやるのであれば、流域圏懇談会の場を活用し、新しい課題として実施事項を明確にするとよい。(近藤)
- ・管理者側が進む方向を示し、利害関係者がそれに対して意見を言うような形にしていくほうがよい。例えば、ダムの堆砂が問題なら、流域圏懇談会に矢作ダム管理所も出席し、できること・できないことを協議するなど。(鈴木)
- ・栄養塩は湧水にも多く含まれる。降った雨が浸透し湧水となる。湧水の状況を検討するとよい。(井上)



今後の予定

- 第12回全体会議 (日時) 令和5年2月17日(金) 13:30~16:30
会場: 株式会社ビレッジ開発 3階大会議室 (愛知県安城市三河安城本町2-7-13)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

